

情報連絡員報告総括表(令和6年11月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	→	→	↘	・原材料価格の値上がりが続いており、商品価格値上げのタイミングに苦慮している。
	処理牛乳・乳飲料製造業	↘	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	・県内の少子化、人口減少により、学校給食用の牛乳は毎年減少している。学校給食の売上割合が高い事業者が多いため、大きな問題となっている。
繊維工業	ニット製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	↘	・自動車関連は受注の変動が大きくなっている。 ・アパレルでは、スポーツ分野の受注が若干良い傾向にある。 ・選別消費や買い控えが進んでいる。 ・繊維業界は先行きが不透明で厳しい状況である。
	絹人織織物業 製 造 業	↗	↘	↗	→	→	↗	→	→	→	・原材料や資材価格の高値が続いている。 ・商品価格を値上げしたことにより、売上は若干増加傾向にあるが、収益が追従していない。
	綿・スフ織物業	→	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・時期的な問題もあり、受注状況は若干低調に推移している。
木材・木製品	一般製材業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・新設住宅着工戸数は、前年同月比＋62.0%となり、全国の－2.9%と比べて大幅に改善されている。 ・34ヵ月連続で前年同月比割れとなっていた木造持家住宅着工数については、35ヵ月ぶりに前年同月比プラスに改善している。 ・木材関連事業者は、長期的には新設住宅着工数の減少が続くことから、引き続き経営改善に努めると共に、木造率の低い非住宅・中高層建築物での木造化や内外装の木質化を進め、新たな木材需要を創出することが重要である。 ・ロシア材を取扱う事業者は、安定的にロシア材を確保することに苦慮しており、更に国内需要の減少も伴って厳しい状況が続いている。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。

印	刷	印刷業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	→	↘	・用紙メーカーより、10月から用紙値上げの発表があったが、まだその動きは見られない。しかしながら、大きな割合を占める用紙の動きは予断を許さない状況が続いており、年明け以降の動きが注視される。 ・用紙以外の印刷資材関係は、個々に値上がりが続いている。
化 学 ・ ゴ ム		医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・原材料価格等の高止まりに加え、人件費の上昇や人材確保難など、厳しい状況が続いている。
窯業・土石製品		生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比で97.5%となり、ほぼ前年実績並みである。 ・4月からの累積出荷量は、県全体で前年比92.0%と前月に続き若干の改善を見せている。
		コンクリート製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	↘	↘	・特になし。
		骨材・石工品等製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・震災による能登半島への骨材供給体制について、呉西地区業者が主体で供給を行い、県全体で協力することとしている。 ・骨材標準価格について、令和7年度は据え置きすると決定している。 ・骨材の需要は、堅調な状況で推移している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・11月の生産量はやや増加したものの、受注状況は全般的に低調である。 ・3ヵ月から半年先の景況感は悪化している。
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	↘	・特になし。
	アルミニウム製品製造業	↗	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	↗	→	→	・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて生産実態が安定している。 ・工場の老朽化などにより、組合員3社が建屋全体の外装を整備している。 ・組合員企業は、新規雇用や社員の待遇改善対策に苦慮している。
	めっき加工業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	→	・主要取引先からのめっきを行う製品の入荷が減少しており、売上高は前年同月比で減少している。 ・収益状況は前年同月比で悪化している。 ・一部の企業においては、震災復旧のための修繕費の支出が増えており、収益を悪化させている。
一般機器	金属工作機械製造業	↗	↘	→	→	↗	→	→	→	→	・受注状況及び売上共に、11月は今年度の中で一番多く、前年同月比でも共に増加している。 ・世界情勢、特にアメリカの動向が輸出にどのような影響を与えるのか注視している。
	金属加工機械製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	非金属用金型製造業	→	→	↘	→	↘	→	↘	→	↘	・製造業全般が厳しい状況下にあるように見受けられ、報じられている経済動向は現状維持、上向きとされるが実感とは大きく異なっている。コロナ禍からの低迷も続き、今は不景気と判断される状況下である。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↘	→	↗	↗	→	→	→	→	→	・中国の景気減速が長引いており、電子部品市場の回復は踊り場になっている。大手メーカーのリストラに象徴されるように自動車向けも好景気とは言い難く、民生品市場も景気回復の力強さに欠ける。 ・原材料価格の高騰や賃金増に対する価格転嫁への対応について、顧客には概ね値上げの承認を得ている。 ・新製品開発の動きは電動車を中心に活発化している。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・ふるさと納税による返礼品の受注が増えてきている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
卸売業	セメント卸売業	↘	→	↗	→	↗	→		→	↗	・袋セメント出荷数量について、11月も前年同月を大幅に上回り、4年前から続いた数量の減少傾向は完全に解消されている。 ・建設関連事業については、資材価格や人件費、運搬費が高騰したことで、着工数は横ばいか減少傾向で伸びは見られないが、引き続き能登半島地震災害復興に伴うインフラ関連工事が旺盛となり、出荷増加に繋がっていると想定される。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↘	↗	↘	↘	↘		→	↘	・鋳造関連では、受注の冷え込みが続いている。 ・新規製造が少ないことが今後に影響しないか心配である。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	↘	・イベント開催の増加によって、売上は減少している。また、新しい店舗のオープンによっても売上が減少している。
	野菜・果実小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・11月の富山卸売市場は、前年同月比で数量102%、単価115%、売上高は117%となっている。野菜単価については、4月～11月累計の前年比で120%と高い状態が続いている。 ・青果組合全体の売上高は、前年同月比105%となっている。
	家庭用電気機械器具小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↘	→	↘	↘	↘	↘		↘	↘	・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。 ・先月に引き続き、需要の回復感は弱く、また物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少が続いている。 ・販売価格については、燃料油価格激変緩和対策事業の補助内容が前年同月と同じであるため、前年同月比はほぼ同じ状況である。
	農機具小売業	→	→	↗	→	→	→		↘	↘	・特になし。
	スポーツ用品小売業	→	→	↗	↘	↘	↘		→	→	・スポーツ衣料販売が不振である。
	ショッピングセンター	→	→	→	↘	→	→		→	→	・特になし。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	↘	・11月は例年、人出が鈍る時期であり、駐車場の利用状況からもその傾向が見られる。 ・クリスマス商戦や歳末を控えて、装飾品や高級衣料等の買い回り品の消費が増えている。 ・飲食関係は安定している。
	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・物販は元に戻ってきているが、飲食については、土日祝日に雨天が多く、落ち込みが大きい。
サービス業	クリーニング業	→		↗	→	→	↘		→	→	・例年より夏日が長かったこともあり、夏物しまい洗いのクリーニングの時期が遅れ、全般的に業況はやや低調である。 ・今後、ビジネスカジュアル等によるクリーニング需要の減少が心配される。
	飲食業	→		↗	→	→	→		→	→	・毎月食品の価格が上がり苦慮している。特に米の値上がりが痛い。
	建築設計業	↗		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・11月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、前年同月比で3ヵ月ぶりのマイナスとなっている。新車販売について、自動車メーカーの認証不正に伴う影響が緩和し、人気車種の生産が再開されたことで、プラスに転じると思われたたが、個人消費の節約志向が目立っており、予断を許さない情勢が続くと予想される。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められている。更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少していく状況にある。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↘		↘	→	↘	→		→	↘	・鉄工業の繁忙感、需要の比率で高いウェートを占める地場中小物件の増減で決まると言ってもよく、大型物件が多くても影響は限定的である。 ・中小物件の低迷は、鋼材費、副資材費などの高止まりが解消されない限り、当分続くと思われる。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↘	→	・景況に変化はない。 ・各会員は、道路消雪点検業務が始まり多忙な状況である ・各自治体の水道関係新年度予算編成については、今年度並みの予算を確保しているが、資材、燃料費、労務単価等の上昇分は上積みされないことから、発注件数は減るものと危惧している。
	電気工事業	↗		↗	→	→	→		→	↗	・公共工事、民間設備投資、新築住宅着工件数いずれも増加している。特に分譲住宅の着工が前年比140%となっている。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・軽油価格が前年同月比+2.7円/ℓで推移している。政府の燃料油価格激変緩和対策事業の補助率が2回にわたって引き下げられることが決定し、各々5円前後の値上げが予想されることから、12月以降の収益状況が懸念される。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・燃料価格について、前年同月比+2.6円/ℓと値上がりしている。 ・物量は、前年同月比101.1%である。